

『デンマークのサイエンス・コミュニケーターが話してくれたこと』

岡橋 毅 (北海道大学 科学技術コミュニケーター養成ユニット 特任助手)

サイエンス・カフェ宣言 (@デンマーク)¹

サイエンスはますます速く進化している。サイエンスは、私たちの身の回りの世界を大きく変えていく可能性を、毎日のように生みだしているように思える。だからこそ、私たちは「どんな研究やテクノロジーを発展させていきたいのか」、そしてそれを「どう利用していくのか」、について議論を続けていくことがとても重要になってきている。

サイエンス・カフェ・コペンハーゲンの目的は、市民が議論するための場を提供することである。私たちは、科学的問題に関する情報を広く伝え、媒介したいと願うとともに、それらがより広い社会的文脈のなかでどのような影響を持つのかということも議論したいと願っている。そうは言っても、私たちは(すでに)科学への関心がある常連の聴衆に対して教え諭すような講義をすることが効果的なコミュニケーションだとは思っていない。サイエンス・カフェの根底にある考え方は、「知識の伝達や仲介は、多くの市民に届き、かつ相互的な関わりが持てるものであるべきだ」というものである。それは、専門家と市民が同じ場所で顔と顔を見合わせ、偏りのない節度をもった雰囲気の中で対話することによって達成される。サイエンス・カフェはその始まりから民主的であり、誰でも参加することができる。

こうした話し合いの枠組みは、党派的なものではなく、領域を超えるものである。サイエンス・カフェのイベントは、インフォーマルで親密な場であるカフェにおいて行われるため、専門家と聴衆の自然な対話を和やかな雰囲気の中ですすめていくことができる。パネラーとして参加する専門家は、自然科学や社会科学、人文科学、アート、そしてカルチャーを代表する人たちが構成される。

うまくいったサイエンス・カフェでの議論は、科学と社会を結ぶ役割を果たしている。一方で、サイエンス・カフェは、アートやカルチャーといった領域に科学の知識をもたらす。もう一方で、サイエンス・カフェによって、科学的な実践に社会的、文化的、美術的な問題がさらに組み込まれるようになる。

サイエンス・カフェで話される内容は、民主的なものであり、どんな人にもアクセス可能である。そして、どんなサイエンス・カフェでも参加費は無料である。

ゲルト・バーリン & エマニュエル・シューラー (翻訳: 岡橋)

デンマークのサイエンス・コミュニケーター

ここに訳出したサイエンス・カフェ宣言を起草した2人のうちの1人、バーリンさんが、この3月に北海道大学で行われたシンポジウムで講演をされた。バーリンさんは、人間と新しいテクノロジーの関係をテーマにする研究者であり、現在は技術移転に関するデンマーク国内のネットワークのコーディネーターである。また、コペンハーゲンのサイエンス・カフェ²を切り盛りし、テレビやラジオ、新聞を通して科学的問題についての話題

を伝えている、いわばデンマーク随一のサイエンス・コミュニケーターである³。北海道大学での講演では、「デンマークとヨーロッパにおけるサイエンス・コミュニケーション」というタイトルで「公衆の科学的理解」や「サイエンス・コミュニケーション」がヨーロッパで盛んになってきている背景と具体的な活動例をわかりやすく発表してくれた。

このエッセーでは、その講演の内容の一部と後日に行ったEメールと電話でのやり取りで得た話を交えながら、バーリンさんの活動の根底ある実践哲学を紹介す

1:ここに訳出されている「サイエンス・カフェ宣言」は、ゲルト・バーリンとエマニュエル・シューラー著のブックレットである「The Science Cafe」冒頭のp.13-p.14にあるScience Cafe Manifestoである。ここに翻訳することについては、バーリンさん本人に快諾していただいた。

2:サイエンス・カフェ・コペンハーゲンのホームページ:<http://www.videnskabscafeen.dk/default.htm>

3:バーリンさんのホームページ:<http://www.gertballing.dk/index.english.html>